



医療シンポジウム参加及び医療機関訪問の実施 (写真は病院訪問した官民ミッション団)

# インド 官民ミッション

## 2014年9月

## 2014年度インド官民ミッション開催

### ヘルスケアシンポジウム「HEAL」参加

・9月1日(月) 9:00~18:00

・FICCI House (インド・デリー)

9月1日(月)・2日(火)、昨年に続きインド・デリーにて今年度最初の官民ミッションを開催した。1日目は、本年1月安倍首相訪印時の日印首脳会談に合わせ、MEJがMoUを結んだインド商工会議所(FICCI)が主催するデリー最大のヘルスケアシンポジウム「HEAL」にカントリースポンサーとして参加した。

今年のHEAL来場者は、病院経営者、医師、医療従事者、医療機器メーカーなど600名を超え(昨年は500名)、会場は熱気に包まれていた。

シンポジウムは、FICCI 事務局長及びヘルスケア部門長(Apollo 病院グループ社長)によるスピーチで開幕。冒頭のセッションではインド・モディ首相が訪日中であることが取り上げられ、日本の参加者に対して感謝と期待が述べられると会場から大きな拍手が起こった。



(写真：HEAL 2014 看板)

9月1日(月)、2日(火) インド・デリー

午後は、MEJセッション「Creating Healthcare Access for Cancer Treatment: Sharing Japanese Solution」開催。京都大学 平岡教授より、日本最新のがん診断・治療が紹介され、がん研究会 太田理事より、がん予防/治療を提供する病院経営のポイント、Rockland 病院の Srivastava 会長よりインド Cancer Center プロジェクトを通じた日本の先進医療に対する評価/期待について講演が行われた。続くパネルディスカッションでは、インド市場にマッチした日本技術への期待や、日本・インド病院間のコミュニケーションの強化について議論された。



(写真：MEJ セッションの様子)

今回のHEALは、「Innovation Enabling Access」という題目の下、医療を受けられている人がごく一部に限られていることが課題として挙げられており、ユニバーサルカバレッジを目指したあらゆる分野でのイノベーションの必要性が様々なセッションで言及されていた。

現地主催のシンポジウムに参加するという、今回の官民ミッションの形について、参加者からは、現地キーマンが多数集まっており、ネットワーキングの場として極めて有効である、との意見も寄せられた。

### Fortis Memorial Research Institute (Gurgaon) 訪問

2日目は、昨年開業した Fortis Memorial Research Institute を訪問。Business Development & Alliances 部門の Sumeet Aggarwal 氏よりインドの医療市場及び Fortis について説明を受けた後、院内見学を行った。担当者によると1日の来院者数は1,000人、規模は1,000床。昨年は、94か国15,000人の外国人患者も受入れている。人間ドック的予防診断も行っており、1日最大50人ほどを受け入れている。院内には、カフェや売店をはじめ美容室、スパ、スポーツジム、プール、映画館もありホテルのようであった。



(写真：VIP向け特別病室)

### インド日本商工会 (JCCII) との意見交換

午後は、日本大使館を訪問し、インド日本商工会(JCCII)と意見交換を行った。今年6月に発足したヘルスケア部会から13社18名、日本大使館 千正書記官はじめ、ミッション参加者が参加。

ヘルスケア部会によるインドの医療機器認証・規制についてのプレゼンテーション、関税分類やBIS規制などの課題について意見交換が行われた。ヘルスケア部会のメンバーからは「これまでの日本の説明は、米国がFDAの普及ため行ってきた努力の5%にも満たない。現状はその結果である。」との発言もなされた。PDMA取得機器への認証の簡素化など、今後官民一体となってインド政府に対して粘り強くアピールしていくことが重要であることが確認された。

編集：MEJ事務局